いつもありがとう

第7回作文コンクール入賞作品集 2013

〈選者〉あさのあつこ／森田正光／小島奈津子／﨑村忠士／松本宏樹

「いつもありがとう」作文コンクール共催企業

SINANEN　ミライフ

ひまわりガス　シナネングループ各社

シナネン株式会社 東京都港区海岸一丁目4番22号　http://www.sinanen.com/

みんなの身近で暮らしをサポート！

いつもありがとう　第七回作文コンクール入賞作品集（2013）　もくじ

先生方のお言葉……3
あさの あつこ（作家）
森田 正光（気象予報士）
小島 奈津子（フリーアナウンサー）
﨑村 忠士（シナネン株式会社）
松本 宏樹（朝日小学生新聞）

最優秀賞
わがやのはやり　松本 義孝……4
シナネン賞
お母さんのお弁当　嶋田 夏海……6
ミライフ賞
初めて知った母の気持ち　中谷 恵……8
朝日小学生新聞賞
お父さん、ありがとう　野口 さくら……10
優秀賞
〈低学年の部3編〉
ピユミちゃん、ストューティー　相田 潤乃……12
せんたくもの　市川 卯里子……14
お父さんのチャーハン　阪上 修瀬……16

〈高学年の部3編〉
お父さん、ありがとう　安留 千世……18
母とぼくの「ありがとう」　古田 泰士……20
大切なパパへ　松田 わこ……22

団体賞（5団体）
【群馬県】榛東村立北小学校
【神奈川県】湘南白百合学園小学校
【愛知県】扶桑町立柏森小学校
【愛知県】扶桑町立扶桑東小学校
【京都府】ノートルダム学院小学校

主催：朝日学生新聞社
共催：シナネングループ
後援：文部科学省　朝日新聞社
●応募総数三三、八〇〇作品の中から選ばれました。

先生方のお言葉

あさの あつこ　【作家】

作品に登場する大人たちの生き方に励まされました。思わず背筋がシャンと伸びるような生き方をされている保護者の姿に、「私もこんなふうに生きてみたい」と思いました。文章に込められた子どもたちの思いに、私自身が人間としての生き方を教えられました。どの作品も素敵で審査をするのがしんどかった。とても大変でしたが、幸せな機会でした。

森田 正光　【気象予報士】

文章の上手さ、書かれている出来事の内容、どの作品も力作ぞろいで、選考には苦労しました。ユーモアあふれる作品も多かったように感じました。思わず声を出して笑ってしまったものもありました。作文を読んでいて声を出して笑ったなんて初めての経験です。今の時代に何が大事なものなのかを教えてくれるコンクールですね。

小島 奈津子　【フリーアナウンサー】

子どもや親など、いろいろな立場で読むと、笑ったり、ほろっときたり。大人の生き方が、子どもの考え方に影響することが作品を通じて分かりました。親として、たくさんの教訓をいただいた機会でした。ケンカや葛藤、衝突もあるけれど、それが絆につながっていく。そして、もっと深い「ありがとう」になっていくのだな、と思いました。

﨑村 忠士　【シナネン株式会社】

作文を応募してくれた子ども達の本質をつく洞察力には毎回、驚かされます。また、作品に登場する保護者は素晴らしい方ばかりで、頭が下がりました。大人として企業人として、教えられることがたくさんありました。どの作品も優れており、迷いながら審査しました。実際、小社の社員に読ませてみても、評価がバラバラになったほどです。

松本 宏樹　【朝日小学生新聞】

子どもたちの作文から「ありがとう」の本当の使い方を教えられた気がします。子どもたちの心をこめた「ありがとう」は、ふだん私たちが何かうれしいことをしてもらったときに言うのとはひと味違います。いつもそばにいて支えてくれる父母兄弟姉妹の存在のかけがえのなさに気づいたとき、勇気を出して届けたいと思う、そんな言葉なのでしょう。

（順不同　敬称略）

最優秀賞

わがやのはやり

熊本県　熊本市立高平台小学校　一年
松本（まつもと） 義考（よしたか）

よるごはんをたべていたときのことです。ぼくのすきなおとうさんが、いいことをおしえてくれました。

ぼくといもうとはよくけんかします。けんかしないってやくそくするけど、なかなかなおりません。どうしてけんかがなおらないのかな、おかあさんもこまってます。

おとうさんが、けんかのなくしかたをおしえてくれました。

「おにいちゃんは、いもうとがいてくれてよかったことをみつけてごらん。いもうとは、おにいちゃんがいてくれてよかったことをさがしてごらん。」

といったのです。ぼくはかんがえて、いもうとにきこえるようにいいました。

「いもうとがいるからたのしくあそぶことができるよ。」

いもうとはわらって、こんどはいもうとが、ぼくのいいところをいってくれました。

「おにいちゃんはやさしいね。」

ぼくはうれしくなって、またいもうとのいいとこをかんがえました。

「いもうとがいるときは、おうちがおもしろくなる。」

とおしえました。いもうとがこんどもぼくのいいとこをいってくれました。きょうだいだけじゃなくて、おとうさんやおかあさんのいいところも、かんがえるようになりました。

ぼくといもうとのけんかはへりました。ほめてもらったらうれしいきもちになります。だから、けんかがなくなるとおもいます。

ぼくのかぞくは、おたがいにいいことをいうのがはやってます。なつやすみにはやったことです。でも、これはなつやすみがおわってもやめないでつづけたいです。

おとうさんはおしごとでおそくかえってくるけど、ときどきあそんでくれるのがいいところ。みんなのために、りょうりとか、せんたくとか、そうじをしてくれるのがおかあさん。いちばんげんきがいいのがいもうとです。みんなありがとう。ぼくはおにいちゃんだから、いもうとにやさしくします。もちろん、おとうさんとおかあさんのいうこともきくし、おかあさんがつくってくれたおりょうりもぜんぶたべます。

シナネン賞

お母さんのお弁当

茨城県　下妻市立下妻小学校　六年
嶋田（しまだ）　夏海（なつみ）

元気がとりえな私。学校を休んだことが一度もなかった。そのはずなのに、授業中だんだん息苦しくなって頭がぼんやりしてきた。病院に行ったらインフルエンザだって言われた。校外学習は四日後。学校に行っていいのは五日休んで六日目から。校外学習には行けなくなった。

私の前と後ろの席の人は二、三日前からインフルエンザで休んでいた。でも、私は元気だから大丈夫だよね、そう思っていた。早退することになったと担任の先生が電話をするとお母さんは息を切らしてすぐに来てくれた。その日はずっと体中がほてっていてまるで熱いふろの中にいるような感じでとてもつらかった。お母さんはずっとそばにいて手をにぎってくれた。お母さんの手はほんわりと温かくてとても心地よかった。気がついたときには朝になっていて、気分も楽になっていた。横を見ると、お母さんが私の手をにぎったまま寝ていた。お母さんは私が寝た後もついていてくれたのだ。

「お母さん、ありがとう。」

私がそうつぶやいたとき、お母さんが目を覚ました。

「あら、先に起きていたの。気分はどう？」

「うん、良くなったよ。でも、やっぱり校外学習行きたかったな…。」

私が言うと、お母さんは何かを考えていた。そして校外学習当日。結局行くことができなかった私はすることがなかったので天井をじっとながめていた。

「なんでこんなときにインフルエンザにかかったんだろう。みんなと一緒に行きたかったのに。楽しいだろうな。」

私は行けなかったことがとっても悲しかった。そんなことを思っていたとき、

「夏海、ご飯よ。」

お母さんがご飯を持ってきてくれた。私はお母さんが持ってきた物を見ておどろいた。お弁当だった。

「ほら、夏海校外学習行きたがっていたじゃない。少しでも行った気分になってほしくてね。」

お母さんが作ってくれたお弁当はとてもカラフルで花型のにんじんやハートのウインナーなどが入ったかわいいお弁当だった。でも、一人で食べると思うと少しさみしいな、そう思ったとき、お母さんが私の横にすわった。

「私の分も作ったから一緒に食べよう。」

お母さんと食べたお弁当はとってもおいしくて、うれしくなった。

「お母さん、大好きっ。」

私はお母さんの作ってくれたあのお弁当の味を忘れない。どんなときでも私のことを一番に考えてくれる、やさしいお母さんの作ったお弁当はだきしめられているときのような温かくて安心する味がした。私はもっとお母さんが大好きになった。私のことを大切に思ってくれるお母さんが。いつもありがとう、誰よりも大好きだよ。お母さん。

ミライフ賞

初めて知った母の気持ち

新潟県　新潟市立東山の下小学校 六年
中谷（なかや）　恵（めぐみ）

最近、私は母とよくけんかをする。また今日も、いらだちとくやしさと情けなさで、二階に上がってきてしまった。家族四人で楽しく夕飯を食べていたのに、台無しにしてしまった。自分が悪いということは、いやなくらい分かっている。でも、心のどこかでは、「うるさいなあ。」と思っている自分がいる。そして結局、素直になれずにふてくされてしまうのである。

母は、普段はとても優しくておもしろい人だ。けれど、あいさつや言葉づかい、食事のマナーなどにはすごく厳しい。また、何事にも一生けん命な人だ。仕事から帰ってくると疲れた顔も見せずにてきぱきと家事をこなし私や兄に勉強を教えてくれる。

私たち家族のために、自分の時間をおしんで働いてくれる母の口ぐせは、「一生けん命やりなさい。神様が見てるよ。」である。いつも長続きしないで途中であきらめてしまったり、ダラダラと時間を過ごしている私は、つい母とぶつかってけんかになってしまう。

そんなことが続いたある日、朝起きたら枕元に母からの手紙が置いてあった。「ゴミじゃないよー。」と母の似顔絵が描いてあった。私の最近の様子のこと体のこと、そして、最後にこう書いてあった。

「――――めぐのことを考える時、いつも申し訳ない気持ちでいっぱいです。めぐがいちばん母親の愛情を必要としている時に、仕事、仕事で全然いっしょにいてあげられなかった。夕飯も食べてあげられなかった。お風呂にも入ってあげられなかった。母親としてなんにもしてあげられなかった。本当にごめんなさい。

めぐは覚えてるかな?朝めぐと手をつないで歩く、あの幼稚園までの5分がお母さん宝物でした。

いつもうるさく言ってばかりでゴメンなさい。めぐには、将来、大好きな人やかわいい子供たちのために、一生けん命がんばることのできる人になって欲しいと思います。幸せになって欲しいと思います。――――」

涙があふれて止まらなかった。大きな声を出して泣きたかった。私は、泣いている顔を家族に見られるのが恥ずかしくて、自分のベッドから出られなかった。母の気持ちは痛いほど分かっていたはずなのに、母がこんなにもわたしのことを考えていてくれて、大切に思っていてくれていたなんて…。すごくすごくうれしかった。

私は、一階に下りて、「ありがとう。」の代わりに母にぎゅっと抱きついた。母は、いつもの笑顔で「おはよう。」と言ってくれた。

これからは素直になれる気がした。

朝日小学生新聞賞

お父さん、ありがとう

福岡県　北九州市立穴生小学校　五年
野口（のぐち）　さくら

お父さんありがとう、ありがとうの言葉をいっぱい伝えたいけど、お父さんとの時間があまりありません。

私のお父さんは、私が三年生の時にがんになりました。私は、がんとは何か、よく分かりませんでした。でもお父さんは、がんと戦いながら、私の事はちゃんと見ていてくれました。元気な時は仕事、仕事と言っては休みなく働いて私や、お母さんのために一生けん命働いていました。そんなお父さんを見て、私は、お父さんは仕事だけが好きで、私や、お母さんの事はきらいなのかなと思ったりしたこともあり、でも四年生になってすぐに、お母さんが言いました。

「お父さんとの思い出作りにみんなで、お父さんの大好きな沖縄に行こう。」と言いました。沖縄に行った時のお父さんは、すごくやさしくいろいろな事をさせてくれました。自分の体もきついのに私にやさしくしてくれました。それからまた入退院をくりかえし、私が見ていても、つらそうでした。

九月になってお父さんがまた沖縄に行きたいと言って、沖縄に行きました。四月の沖縄とはちがってお父さんはあまり動くことが出来なくて熱が出て大変でした。

でも私の事はいろいろしてくれました。いろいろな物も買ってくれたりしました。

そして私の誕生日には、お父さんも初めてのケーキ作りをして私にたくさんの愛情をくれました。ケーキは、ケーキ屋さんで買って食べるほうが楽だと思っていたけど、手作りケーキを手間をかけておいしくしてくれました。正月は、おすしを家で手作りしてみんなで食べて、楽しいお正月でした。

その間もお父さんの体は、がんに良い所を食べられていました。お父さんは、がんに体中、うめつくされています。夏休みも海には行けないから、映画なら行けると約束したけど、それも今は無理です。八月十日に退院した次の日にはまた病院に入院してしまいました。私はお父さんにしてあげられる事を探しては、実行しています。私はこんなにやさしいお父さんが大好きです。自分の事より私の事を気にかけて、いつも「さくら、さくら」と言ってくれるお父さん、これからもお父さんにしてあげたい事がたくさんあります。でもそれも無理なんです。私が今できるのは、お父さんにありがとうの手紙や言葉で「ありがとう」を伝える事だと思います。

本当に私のお父さんでいてくれてありがとう！私を愛してくれてありがとう！

これからも私は心の中でお父さん本当にありがとうと言いたいです。いつ亡くなってもおかしくない今、一日でも長くがんばってね。

お父さんありがとう。大好きだよ！

優秀賞〈低学年の部〉

ピユミちゃん、ストゥーティー

栃木県　佐野市立植野小学校　一年
相田（あいだ）潤乃（ひろの）

わたしのかぞくは、ごにんかぞくです。おとうさんとおかあさんとおねえちゃんとわたしとピユミちゃんです。ピユミちゃんは、スリランカじんです。いま、わたしのうちにほーむすていしています。ピユミちゃんは、じゅうななさいです。こうこうさんねんせいで、うちでいちばんおおきいおねえさんです。

ピユミちゃんは、にほんごがじょうずです。なので、わたしたちといっしょに、はなすことができます。ピユミちゃんによくあそんでもらいます。おてつだいもしてくれて、やさしいです。

わたしたちかぞくが、ピユミちゃんになにかをしてあげると「ありがとうございます」といいます。

ごはんのとき、わたしがおはしをとってわたすと「ありがとう」

おねえちゃんが、ピユミちゃんが、おとしたものをひろうと、また、こくごのじしょをかすと「ありがとう」

おかあさんが、おべんとうをつくったり、まだしらないにほんごをおしえたりすると「ありがとうございます」

おとうさんが「さきにおふろにはいっていいよ」といったり、かぞくでおでかけしたあとには「おとうさん、きょうはつれていってくれてありがとうございます。」とていねいにおれいをいいます。

かぞくみんなが、ピユミちゃんに、ちいさなことでもしんせつにすると、かならず「ありがとう」といいます。ピユミちゃんは、いちにちなんかいもいいます。わたしは、ピユミちゃんにいわれてうれしいです。でも、そんなにいわなくてもいいのにとおもいます。

どうして、そんなに「ありがとう」というのか、ピユミちゃんにきいてみました。

「たとえば、ひろのちゃんに、おはしをとってもらうでしょ。わたしもすぐにおはしをとってあげると、おなじになるね。でも、いつもおなじことをするのはむずかしいね。だからかわりに〝ありがとう〟というの。それなら、できるでしょ。」

ピユミちゃんのにほんごのせつめいは、ほんとうにじょうずです。

わたしは、かぞくのなかでいちばんちいさいので、いろいろなことをやってもらいます。そのとき「ありがとう」といわないこともあります。ピユミちゃんのように、もっといわないといけないな、「ありがとう」にはそういういみもあるのだなとわかりました。

「ストゥーティー」スリランカのことばで「ありがとう」です。これからは、たくさん「ストゥーティー」「ありがとう」をいってみようとおもいます。

優秀賞〈低学年の部〉

せんたくもの

東京都　星美学園小学校 二年
市川 卯里子

夏休み、ちょっとだけいつもより、おそくおきた。かおをあらいに、せんめんじょに行きました。かごいっぱいの、せんたくもの。お母さんは、3回も4回もせんたくきをまわします。まだ、ほす前のせんたくものが、山のようになっている。みんなのいえも、こんなかなーと、思った。お母さんに、「ようふくやタオルが山のようだね。」と言った。お母さんは、「みんながたくさんあせをかいたでしょ、お父さんが、かぞくのためにしごとをがんばってくれたあせと、子どもたちが、たくさんあそんでかいたあせの山だよ。」そう言って、お母さんは、ベランダにせんたくものをほしに行った。わたしも、いっしょについて行った。「ねえー、お母さんまい日大へんじゃない？」お母さんは、「しあわせ」と、言った。「しあわせ？」「がんばってかいたあせじゃない。」そうなんだー。わたしは、ほかのいえのせんたくものを見ると、あっちにもこっちにも、しあわせがほしてある。と、思った。しゅくだいをおわらせ、お母さんとおとうとと、かいものへ、でかけた。わたしは、ほかのいえのせんたくものが気になり、ベランダばかり目がいっちゃいました。夕がた、お母さんが、せんたくものをとりこみに行った。たたむのをあと回しにして、お母さんは、夕ごはんのしたくをしている。いつもは、テレビを見てまっているけれど、今日は、あの山をわたしがたたんであげよう！と、お母さんにないしょでたたんだ。たたんでも、へらないせんたくものの山。「おふろに入るよー」と、お母さんが、わたしとおとうとをよんだ。せんたくものをそのままにしておふろへ行った。あせをかいたようふくを、せんたくかごへ入れた。わたしは、ごはんをたべて、しごとからかえってきたお父さんの、あせをかいたようふくと、よごれたくつ下を、せんたくかごに入れに行った。またあしたおきたら、かごいっぱいの山になっているのかなーと、思いながらお父さんとお母さんに「おやすみ」と言って、ねむりに行った。つぎの朝おきて、ようふくダンスのひきだしをあけると、きのうわたしが、とちゅうまでたたんだようふくの山が、きれいにたたんでしまってあった。また、がんばってあせをかくためにきもちのいいきれいなようふくをきられる。「しあわせ」なのは、わたしたちのほうだよ。わたしは、やっぱりお母さんに「ありがとう。」が言いたくなった。

優秀賞　〈低学年の部〉

お父さんのチャーハン

和歌山県　智辯学園和歌山小学校 三年
阪上（さかうえ） 修瀬（しゅうせ）

お父さんは休みの日に、よくチャーハンを作ってくれる。学生の時にラーメン屋でアルバイトをしていた事があり、そこから改良した自まんのチャーハンみたい。そして、ぼくはそのチャーハンが大好きだ。

でも、この間お父さんにしかられた後、作ってくれたチャーハンは食べようか食べないでおこうかまよった。

お父さんは、しかった理由もきちんと話してくれて、途中でやっぱりぼくが悪かったのだと気付いたけれど。

最初にぼくは悪くないと思って、必死に言いわけしていた分、す直にあやまれない。ましてやチャーハンにつられたと思われるのもくやしい。ぼくも男だし。

だから、「食べたくない。」と言って、部屋にこもっていた。でも、ぼくの大好きなたまごがいっぱい入ったチャーハンとおいしそうなにおいにつられて、こっそり部屋を出た。

テーブルにぼくの分のチャーハンが置かれていたので、ぼくは小さな声で「いただきます。」を言って、モヤモヤしたまま、チャーハンを食べた。

「あー。やっぱりおいしい。」

ふてくされていた事もわすれてしまうくらい。たまごがたくさん入ったチャーハンをスプーンで口に運ぶたび、意地をはっていたことがだんだんはずかしくなった。

お父さんもぼくにはらが立ったはずなのに、どうしてぼくのごはんを作ってくれるんだろう。ぼくなら作りたくないな。だって、負けたみたいでくやしいし。

それをお父さんに話したら、「ケンカをしてしまった時、自分からあやまったら負けと思うのはちがうと思うな。先にあやまるきっかけを作れた方が人間としても男としてもカッコいいと思うよ。」だって。

そう話すお父さんはたしかにいつもより何倍もカッコ良く見えた。

チャーハンを食べ終わったあと、ぼくは大きな声で「ごちそうさまでした。」と一緒に「お父さん、さっきはごめんなさい。チャーハン作ってくれてありがとう。」

と言ったら、今度はお父さんが、「こちらこそ、残さず食べてくれてありがとう。」とぼくに負けないくらいの大きな声で返してくれた。

ぼくは、なんだかとてもうれしくなって、ぼくもお父さんもお母さんもみんなニコニコ笑顔になった。

「ありがとう」を言ったあとは、さっきまでのモヤモヤもなくなり、すっきりしてとても気持ちよかった。

「ありがとう」って、言った方も言ってもらえた方もみんなが笑顔になるまほうの言葉だと思う。

お父さん、いつもおいしいチャーハンを作ってくれてありがとう。またぼくにも特製チャーハンの作り方を教えてね。大きくなったら、ぼくがお父さんに作るから。

優秀賞〈高学年の部〉

お父さん、ありがとう

山梨県　上野原市立上野原西小学校　四年
安留（やすとめ）　千世（ちせ）

私のお父さんは、児童相談所ではたらいています。色々な子どもや親のおうえんをする仕事をしています。いつもいそがしくて、夜や休みの時も電話がかかってきたり、よばれたりします。家族で出かけている時や遊んでいる時でも電話があると、お父さんは電話にでます。それで、私達は何十分もがまんしなければならないこともあります。また、休みの日なのに急に仕事になって、私のエレクトーンの発表会に来られないこともありました。私や弟より他の子どもを大事にしてるみたいで、本当にいやでした。この前も映画に行く約束をしていたのに、仕事になってしまいました。それで、ずっと言わないようにしてきた言葉を言ってしまいました。「お父さんは、私より他の子の方が大事だからね。」と。お父さんは「ごめんね」とやさしくあやまってくれましたが、悲しそうな顔をしていました。

以前、テレビでお母さんが子どもをたたいてしまったというニュースがながれた時、私が

「お母さんなのに、なんでそんなひどいことができるのか」と聞くと、お父さんは「いたましいことだね。でも、あのお母さんにも色々な苦しいことがあったかもしれないよ。」と言っていました。また、中学生が悪いことをしたというニュースの時も「悪いことはしたけど、悪い人間ではないと思うよ」と言っていました。お父さんは、「その人の良いところを見つけておうえんするのが児童相談所の仕事」とよく言っていますが、いけないことをした人の良いところを見つけるなんてすてきだけど、たいへんな仕事だと思います。

そんなたいへんな仕事から帰ってくると、お父さんは私や弟と遊んでくれたり、勉強を教えてくれたりします。休みの日に遠くの会場で私のエレクトーンの発表会や弟のサッカーのしあいがあるとつれていってくれます。朝早くから出かけるので、私達は車の中でねてしまうのにお父さんは家にもどるまで休みません。

仕事もがんばっているけど、私達のためにもがんばってくれるお父さんに本当は「ありがとう」と言いたかったのに、あんなことを言ってしまい後かいしています。だから、この作文で言います。「お父さん、いつもありがとう。お父さんがたくさんの人をおうえんするように、私はお父さんをおうえんしていきたいです。」

優秀賞　〈高学年の部〉

母とぼくの「ありがとう」

東京都　武蔵野市立桜野小学校　六年
古田　泰士（ふるた　たいし）

ぼくの母は三年前まで仕事をしていました。一日中働いていたので学童に迎えに来てくれるのはいつも夜八時を過ぎていました。時々九時になってしまうこともありました。この学童は駅の近くにあって、公立や私立など色々な学校の子が預けられています。夜遅くまで友だちと遊ぶことができて楽しい思い出もありますが、そんな生活にぼくは不満を持っていました。それは放課後に学校の友だちと遊べないからです。「後で家に呼びに行くね」と、待ち合わせをしている友だちがうらやましかったからです。だからぼくは、（お母さんが仕事を辞めればいいのに）と思っていました。そして時々、「お母さんが働いていない人はいいな」と言って、母を困らせていました。でもそんな時は決まって、仕事がどれだけ社会に役立っているかをぼくにもわかるように説明してくれました。だから、母は仕事が大好きで、仕事に誇りをもっているんだ、ということがよくわかりました。

でも、そんな母がある日、「もう仕事辞めようかな」と言ったことがあります。ぼくが二年生の時です。夜、いつものようにバスを待っていたら、突然言ったのです。ぼくは母の顔を見ました。少し泣いているように見えてびっくりしました。「何で泣いているの」と聞いても、答えてくれませんでした。そのかわり、「お母さんが仕事をやめたらお友だちと遊べるね」と言い、涙を流していました。それを見て、二年生のぼくがこう言ったのです。

「ぼくが野球の選手だったとするよ。（ぼくは小さいころから野球が大好きでした。）試合に出て、ホームランが打てなくて負けてしまったときに、（もう野球なんかや〜めた）ってあきらめたらどう思う？がんばってみてからあきらめなさい、って言うよね。」

ぼくはその時のことをはっきりとは覚えていないので、何でそんなことを言ったのかはわかりません。でも、その後に「だからお母さんも最後までがんばってみて。ぼくも学童がんばるから。でもどうしてもつらかったらやめてもいいと思うよ。」と言ったそうです。今聞くとびっくりするようなセリフですが、母はそのことをとてもよく覚えていて、その後、号泣し、ぼくに何度も何度も「ありがとう」と言ったそうです。

その一年半後に、母は仕事を辞めました。でも、「とても達成感を持って辞めることができた」と言っていました。最近、話してくれましたが、あの時は子供を育てることと仕事を続けることの両方をがんばるのがとても大変だったそうです。

ぼくはずっと気になっていた質問をしました。「本当はもっと仕事していたかった？」すると母は「続けたい気持ちもあったけど、家族とゆっくり過ごせるから幸せだよ」と言ってくれました。ぼくこそ、「ありがとう」という気持ちいっぱいになりました。

優秀賞〈高学年の部〉

大切なパパへ

富山県　富山市立堀川小学校 六年

松田（まつだ） わこ

三年ぐらい前、友達が急に英語や算数の塾へ行き出して、私も行った方がいいのかなあと考えた時があった。私は家で、パパに「私も塾へ行きたいんだけど」と言ってみた。パパは「そっか。じゃあ、パパとママで今夜相談しておくよ」と笑った。次の朝、「いただきます」をしたすぐ後に、パパが「わこちゃん、今日から塾だよ。八時ごろに来てね」と不思議なことを言い出した。「八時にどこへ行くの？何ていう塾？」私は同時に二つの質問をした。パパは「八時に、ここ。塾の名前はそうだなあ、『パパ塾』だよ」とニッコリした。

ドキドキしているうちに、その日の夜が来た。パパは七時半ごろ会社から帰って来て、急いで夕ご飯を食べた。そして、約束の八時ちょうどに私の正面に座ったパパは、「わこちゃん、『パパ塾』へようこそ。今日からよろしくね」と言った。私とパパは、塾の時間を九時までと決め、さっそく算数の勉強を始めた。わからない問題があると、パパは少し前に戻ったところから教えてくれた。パパの説明はわかりやすくて、私はうれしくなった。本当の塾へ行ったことはないけれど、何となくこの塾がとてもステキに思えた。そして、苦手な算数なのに、やる気がわいた。

私のパパは会社員なので、仕事で帰りが遅くなる日や、出張で何泊も帰って来ない日もある。だから、友達のように「火曜と金曜は塾の日」というふうにはいかない。そのかわり、急に「今日は塾に行ってもいい？」と頼んでも、「いいよ。がんばってなるべく早く帰ってくるよ」とパパは言ってくれる。パパはたまに眠そうで、私は、仕事で疲れているのに悪いなあと思う。だから、パパがウトウトしている時は、そっとしておくことにしている。

私は『パパ塾』で、パパに算数の他にもいろいろなことを教えてもらっている。少し前に、私は仲良しの友だちを怒らせてしまって、とても悲しい気持ちになっていた。パパは、「ごめんなさい」をきちんと伝えられる方法を一緒に考えてくれた。緊張した時、楽しい気持ちになれるおまじないも教えてくれた。そして、誕生日が近いママに喜んでもらうため、今、私はパパに手品を習っている。パパは、手品の名人で、シルクハットからヒヨコを何羽も出すことができるのだ。パパの塾へ通い算数や手品を習っているので、ママは「今日も塾なの？算数が好きになったみたいね」とごきげんだ。もちろん、ママは私が手品を習っていることなんて知らない。パパは、大好きなママにも、このことを絶対に話すはずがない。パパはひみつを必ず守る人だから。大切なパパ、いつもありがとう。